

波多野六之丞家文書の概要

有賀 陽平

1 波多野六之丞家文書の調査背景

波多野六之丞家文書（以後、波多野家文書）は京都市北区雲ヶ畠に所在する波多野家に伝來した。六之丞とは、近世において波多野家当主が襲名した名であり（後述）、現在は屋号となっている。雲ヶ畠には波多野姓の家が複数存在し、各家に文書が伝えられている。本書にて取り扱う波多野家文書以外にも波多野勇家文書（36点）、波多野秀雄家文書（64点）、波多野文雄家文書（13点）、波多野弥一郎家文書（4点、以上、中畠に所在）が以前の調査で確認されている。それらと区別を明確にするため、所有者の意向によりこの名称を採用した。

この波多野家文書は、京都市の自治体史にあたる『京都の歴史』の編纂過程において、波多野周造家文書として既に調査が行われており近世文書については、目録が作成され『史料 京都の歴史』第6巻末（京都市、平凡社、1993）に掲載されている。本調査の過程でも、混乱を避けるため、波多野周造家文書として調査を進めた。京都市史編さん所による調査については、当時の調査票が文書箱内に現存しており（図1）、そこから、昭和43年（1968）8月13日に京都市歴史資料館長や武庫川女子大学教授を務めた森谷尅久氏が責任者となり調査が完了されたことが分かる。この調査の際には、マイクロフィルムでの撮影も行われており、紙焼き資料として京都市歴史資料館で閲覧可能である。

本調査は、京都府立大学文学部歴史学科文化情報学研究室によって2018年3月より開始した。京都府立大学歴史学科では、本調査以前にも雲ヶ畠において旧雲ヶ畠村役場文書の調査などを行っており、加えて現在の所有者のご厚意により、この度再調査を行うに至った。調査の内容は、写真撮影、目録作成、番号ラベルの貼付などである。また、学部生の実習の一環として、一部近世史料の翻刻も行い、その成果は本書の資料翻刻へ反映している。

2 雲ヶ畠の概要

近世における雲ヶ畠は中畠・中津川・出谷の3ヶ村からなっており、元禄10年（1697）に葛野郡から愛宕郡へ編入された。また、現在の京都市北区小野・大森・真弓・杉坂の葛野郡7ヶ村（上・中・下・東河内・西河内・真弓・杉坂）と合わせ小野郷と呼ばれていた。小野郷は近世を通じて、仙洞御料あるいは御除料であり、朝廷とのつながりが強かったといえる。

代表的な事例として、中畠・中津川の2ヶ村は、上・中・下・東河内・西河内の5ヶ村とともに、端午の節会にあわせて毎年5月4日に朝廷内の建物の軒先に菖蒲を葺く菖蒲役を務め、雲ヶ畠3ヶ村

では毎年5～8月に鮎を献上していた。また、青侍として上皇の修学院御幸や葬送に際し、女房たちの御供を務める者もいた。こうした事例は、雲ヶ畠の人々にとって大変重要な要素であり、近代にはその影響からか、関西で唯一の御獵場が当地に設置されることになる。波多野家文書には、これらについて非常に多くの資料が残されており、雲ヶ畠のみならず、近世以降の京都近郊村落の地域性を明らかにするにあたって、寄与するところが非常に大きい。

人々の生活の基本となる雲ヶ畠各村の村高について、享保17年(1732)9月15日「山城国明細帳」(文書番号3-1、以下同)と明治元年(1868)「旧高旧領取調帳」(国立歴史民俗博物館「旧高旧領取調帳データベース」)を参照すると、ともに中畠村44石1斗9升7合、中津川村36石2斗7升8合、出谷村18石6斗4升6合と変化がない。小野郷全体でも享保期の合計村高は998石3升なのに対し、明治期では997石9斗4升6合となっており、8升4合しか変化がない。つまり、小野郷全体の村高は10ヶ村を合計しても1000石弱であり、近世を通じて村高に大きな変化はなかったといえる。

また、『京都府愛宕郡村志』(京都府愛宕郡役所編、1911)には、明治41年(1908)の雲ヶ畠の民有地における土地利用がまとめられており、山林の占める割合が99パーセントと非常に大きくなっている。こうした地理的条件の中では、新規に田地を開発することは容易ではなく、近代に至るまで生業は林業が中心であったと考えられる。明治40年(1907)7月の記録には、寛政元年(1789)3月に2代目儀左衛門が約100本の植林を始め、それ以降富之助までの間、絶え間なく植林を続けてきたとする(10-20)。明治40年時点でも、儀左衛門が植え付けたものが13本現存しており、近世から100年以上連綿と続く林業への取り組みがうかがえる。

3 波多野家について

波多野家の歴代当主については、元禄4年(1691)9月作成、天保14年(1843)11月写の「中興記録」(3-29・30)よりうかがうことができる(表1)。以下、主な当主を取り上げ、波多野家の変遷を概観する。

最初に記載される六左衛門は万治2年(1659)に年寄(5-52)、万治3年に庄屋を務めており(6-15)、波多野家が近世前期から村役人を担っていたことが分かる。以降、波多野家は代々村役人を務めている。初代六之丞は元文2年に菖蒲役人に加入しており、山惣代なども務めている。次代の儀左衛門は中畠村波多野左京から養子となっている。儀左衛門の子祐助は明和7年(1771)11月の後桜町天皇譲位に際し、明和8年3月に鮎御用継続願書を提出している(2-9、資料翻刻⑬)。一方で、明和5年から天明2年にかけて岩屋山金峯寺から未進を理由に度々借銀を行っている(4-73ほか)。

波多野家の縁戚関係をみると、雲ヶ畠三ヶ村内では、出谷村友右衛門、中津川村泰万右衛門・恒之進・紋之丞など、小野郷内では、上村日下部徳平などが女子の嫁ぎ先として確認できる。これらは各村の村役人や菖蒲役人を務めており、地域内では波多野家と同様の地位を持つ家と関係を結んでいたことが分かる。小野郷外では、西賀茂鎮守尾村金平や上京寺之内通大宮東入南角紅屋平兵衛などと婚姻、養子による関係が確認できる。また、2代目儀左衛門の子柳蔵は村内へ分家し、天保期以降中畠村の村役人を務めている。

4 調査方針と手法

『史料 京都の歴史』第6巻の目録には、一紙は明治6年、帳簿は明治12年のものまでしか記載がないため、本調査では、近代文書についても全て調査対象とすることを基本方針とし、悉皆調査を行った。

現状記録を含めた写真撮影では、文書の欠損状態、一括関係などの情報を可能な限り文書と同じ写

真内に収めることを意識した。具体的には、番号札とともに、「前欠」、「後欠」、「包紙」、「一括」などの札を用意した。これにより、写真から文書の現状が把握でき、包紙など付属物の散逸などを防ぐことができる。仮に、所蔵者のもとを離れ、文書館などに収蔵された場合にも現物確認のために有効であると考えられる。

目録作成では、以前の目録の欠点を補うため、仕様を変更した。文書名は原題表記とし、さらに「西暦年」、「作成・差出」、「形態」、「内容」、「状態」の項目を新たに加えた。目録作成にはエクセルを使用し、「デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン」(内閣府知的財産戦略推進事務局、2017)に準拠し、1セルにつき1データを入力することとした。本書内では、刊行用に様式を変更しているが、データの公開が可能となれば、検索やフィルタリングの利便性向上のため、多くの利用に供するものと考えられる。

5 収納容器と一括関係

波多野家文書は、主に12の収納容器(箱)に収められた文書とその他木製の鑑札などで構成されており、本調査では、まず箱ごとに番号を新たに付与した。各箱の寸法、スケッチは図版を参照されたい。以下、各箱に収納されている文書や一括関係などの特徴を概観していく。

まず、箱1には特徴的な一括が2点あり、それぞれ上書に「禁裏御所・仙洞御所ニ関スル控書類/小野郷中畠村」と「菖蒲御用ニ関スル書類」と書かれている。これらは、明治26年(1893)「山地質入証書」と近代の「金貨借用証文」を再利用し包紙としており、明治中期以降にまとめられたと推定される。仙洞御料であり、朝廷への献上などを行ってきたこの地域にとって重要な文書類であり、動機は明らかではないが、維新後に後述する宮内省御獵場設置などの背景によりこのような形でまとめられたと考えられる。

箱2~6は、主に近世文書を納めている。土地壳券が最も多いが、内容は多岐にわたる。箱7は、中に5つの引出をもつ懸硯である。内容は、赤十字や被災地への寄付に対する褒状と宮内省からの御獵場監守長等の任命状であり、施錠できるため重要な証書類をまとめたと考えられる。

箱8~9は蓋付きの段ボールである。蓋には「波多野(周)家文書」や「後半展示」などの鉛筆書の文字があり、所有者のお話からおそらく京都市歴史資料館に一時的に預けられ、調査や展示に使用されたものだと考えられる。これらは秩序が崩れており波多野家内のどこに収納されていたのか明らかでない。

箱10~11は、いずれも洋服店の紙箱であり、内容も家族日記や書状、税申告書など波多野家の私的なものが多い。

箱12は、高さ75cmの箪笥であり、こちらも施錠できる。収納されている文書のうち、200点あまりの地券が特徴的である。

6 資料内容と作成年代

本調査で確認できた資料数は、合計1960点であった。近世で作成数の多い年は、元文2年(1737)11点、明和7年(1770)13点、天保5年(1834)11点、天保7年12点、天保8年20点である(図2)。このうち、元文2年は、初代六之丞が菖蒲役の代役人となったことに関する同内容の「曖済状之事」が写も含め4点残されており、波多野家にとって重要な証文であったことが分かる(4-24ほか)。また、天保期には、米価高騰による生活困窮を理由に土地壳券や借用証文が度々発行されており、天保4年から全国的に広まった天保の飢饉の影響が雲ヶ畠までも及んでいたと考えられる(追加1-9ほか)。

波多野家文書のうち、近世文書については、『史料 京都の歴史』第6巻において、京都市歴史資料館の分類方式により、次のような分類(A～M)が既になされているため、本調査では新たに分類はしていないが、この内、Bに該当する土地売券や借用証文が最も多くなっている。

A=法令・規制類、B=証文類、C=上申書類、CⅡ=争論関係、CⅢ=十三石山・下夕道一件、D=記録・日記類、DⅡ=宮座関係、E=勘定書類、F=仙洞御所御用関係、G=土地・年貢類、H=仲間・講、J=戸籍類、K=系譜・由緒、L=書簡類、M=絵図類

7 現物確認と新出資料

最後に、本調査において確認できた資料と前回調査の目録を照合し、波多野家文書の残存状況を調査した。照合作業では、文書の作成年代・作成者・宛所を主な判断材料とした。但し紙焼き資料と比較する完全な確認は行えなかったため、同内容のものが複数ある場合は点数により存否を推定した。

まず、照合の成果として、所在不明となっている資料が複数あることが確認できた(表2)。不明資料の中には、『史料 京都の歴史』第6巻に翻刻されているものもあり、編さん過程で散逸した可能性も考えられる。また、主な特徴として「下夕道」に関する資料がまとまって不明となっている点が挙げられる。

一方で、本調査で新たに発見された資料もあった。箱2、7～12がこれに該当する。これらの箱には主に近代文書が収納されていたが、中には近世の雲ヶ畑を明らかにする上で重要な文書も含まれており、本書の資料翻刻はそのような文書を中心に構成した。中でも、朝廷への鮎献上(鮎御用)に関する資料が数多く見つかったことが大きな成果であった。いくつか資料を取り上げる。文政3年1月「書付之事」(2-16、資料翻刻⑯)では、鮎御用のため「下夕道」を通行する願書を提出するのに際し、小野郷小野郷中惣代真弓村四郎右衛門へ奥書を求めたことが分かり興味深い。「仙洞御所詰所日記」(宮内庁書陵部所蔵)には、毎年小野郷に対して鮎御用の会符が発行されており、雲ヶ畑の鮎御用は小野郷全体のものとして認識されていたと考えられる。その中で雲ヶ畑は小野川で鮎を漁獲し運送する実質的な負担者であったのである。天保2年5月「小野川御用日記付」(2-38、資料翻刻⑰)鮎御用に関する日記であり、御用を行った日付や担当者が記録されている。さらに、仙洞御所の賄役人が鮎御用の見分を行っていたこともわかる。

(なお、本稿は、令和元年度アーカイブズカレッジの講義内容を参考に執筆した修了論文を改稿したものである。)

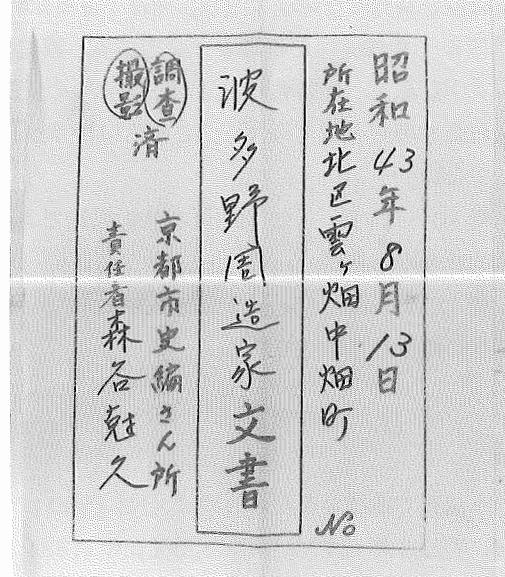


図1 京都市史編さん所の調査票

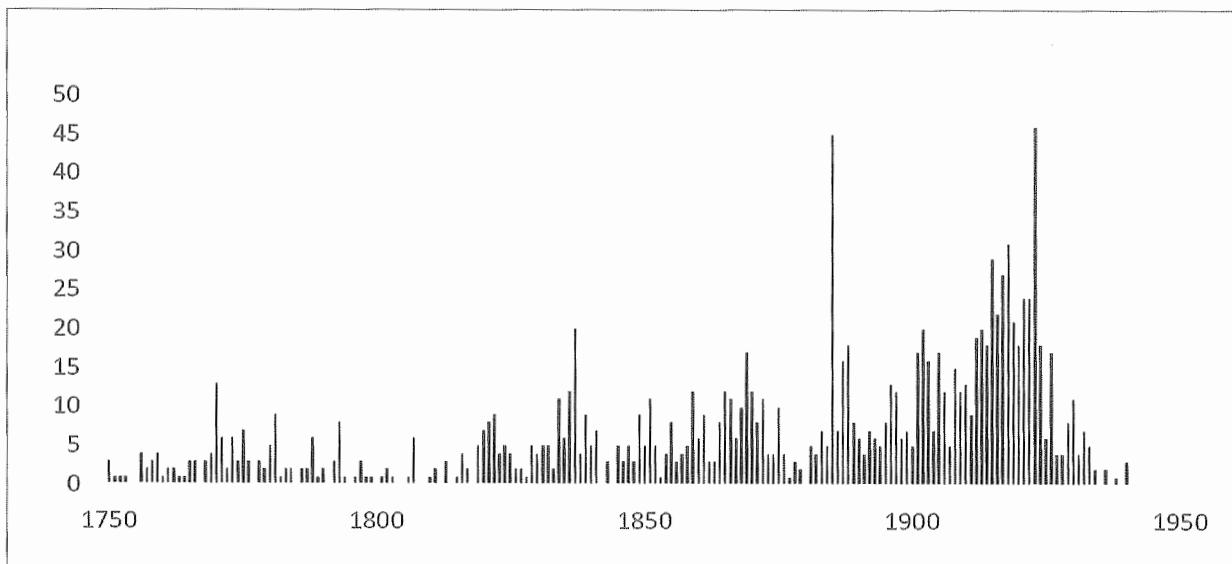


図2 波多野家文書作成年代分布(1750～1950) ※地券123点を含む明治13年(1880)は除外している。

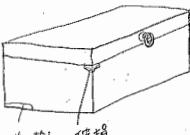
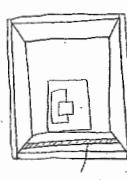
表1 波多野家歴代当主

	氏名	生年	没年	備考
1	六左衛門	元和8年(1622)	元禄4年(1691)8月24日	
2	彦兵衛	寛文7年(1667)	享保2年(1717)11月7日	
3	六之丞(1)	元禄12年(1699)	明和4年(1767)2月15日	
4	儀左衛門(1)	正徳5年(1715)	宝暦2年(1752)7月26日	中畠村波多野左京から養子入
5	祐助	寛保3年(1743)	天明4年(1784)6月26日	
6	儀左衛門(2)	明和2年(1765)	天保8年(1837)12月3日	当主在任期間:天明3年～文政5年
7	六之丞(2)	天明5年(1785)	嘉永4年(1851)3月23日	当主在任期間:文政5年～弘化3年
8	六之丞(3)	文化8年(1811)	明治34年(1901)8月22日	当主在任期間:弘化4年2月～明治4年2月
9	六之丞(4)	天保10年(1839)10月	大正9年(1920)8月18日	雲ヶ畠村長・村会議員・京都府山林会員など
10	富之助	慶応3年(1867)10月5日	昭和15年(1940)	雲ヶ畠村長・京都御獵場監守長・大日本山林会委員など
11	周造	明治31年(1898)12月6日	昭和15年(1940)	

表2 不明文書一覧

文書番号	文書名	年月日	備考
B139	紫竹大門村等横成山年貢米につき一札他写	宝曆4年12月	
B216	中畠村善左衛門山壳渡証文	文化14年11月	→中畠村儀左衛門
B228	山壳渡証文	文政4年	後欠
B313	中畠村六之丞山壳渡証文写	安政2年8月	→中畠村友之進
B321	沽券状紛失につき新券改并買主中畠村百姓訣書	安政5年5月	
B322	雲ヶ畠三ヶ村借受証文写	安政6年11月	→上賀茂拾三石山
B361	金子算用覚	年未詳12月7日	→中畠村村中
B370	某氏山替地証文写	年未詳	後欠
B371	某跡敷上証文	年未詳	後欠
C I 4	小野郷十ヶ村山役銀につき口上書写他	宝曆7年4月	→小堀数馬
C I 11	中畠村鮎漁捕役赦免につき願書他留帳	安永5年~天明2年	
C I 23	雲ヶ畠三ヶ村やきもち頂戴につき書留	天保7年	
C I 32	中畠村願書写帳	慶応2年~明治3年	
C II 11	中畠村兵助・太八郎山境争論につき断書写	享保■年	
C III 3	雲ヶ畠三ヶ村下夕道普請願書写	天明元年6月5日	→奉行
C III 6	雲ヶ畠三ヶ村下夕道につき願書写	文政4年11月	→奉行
C III 7	雲ヶ畠三ヶ村下夕道につき口上書写	文政5年2月10日	→奉行
C III 8	雲ヶ畠・上賀茂村等下夕道一件済状写	文政5年3月27日	→奉行
C III 10	雲ヶ畠三ヶ村他下夕道普請につき絵図写	文政5年3月	
C III 11	雲ヶ畠三ヶ村道造り寄進帳写	文政5年9月	
C III 13	雲ヶ畠三ヶ村下夕道付替につき願書写	文政8年11月13日	→京都町奉行
C III 14	雲ヶ畠三ヶ村下夕道付替につき願書写	文政8年11月	→小堀主税役所
C III 15	雲ヶ畠三ヶ村他下夕道付替につき願書写	(文政8年11月)	
C III 16	雲ヶ畠三ヶ村下夕道絵図書替につき一札写	文政8年11月	→上賀茂西四町
C III 17	雲ヶ畠三ヶ村下夕道付替につき一札写	文政8年12月	→二之瀬庄屋他
D I 1	中畠村諸覚帳	元文2年	
E9	中畠村波多野六之丞財田地沽券状写帳	安政2年~明治16年	
E14	銀勘定覚	年未詳	
F10	小野六郷禁裏菖蒲銘につき次第書帳写	安永6年6月	→小堀数馬役所
F11	小野六郷菖蒲菖次第家筋様子書帳	寛政元年~安政6年	
F37	中畠村六之丞菖蒲役加入一件書留	年未詳	後欠
G6	中畠村半年年貢勘定目録写	享保2年	
G62	中津川村出谷村子年山役年貢皆済目録写	慶応元年2月	→小堀数馬役所
G63	中津川村出谷村子年年貢皆済目録写	慶応元年8月	→小堀数馬役所
G69	中畠村已年上納金通帳	已年	
J6	中畠村新治郎養子一札写	文久3年8月	→同村市之丞
K3	波多野家家系図	~明治	
L1	西郷吉之助書状	年未詳2月11日	→大正弥助
L5	大久保利通書状	年未詳4月16日	→町田久成
M2	下道絵図写	文政5年3月	
M4	中津川村絵図	天保8年2月	
M6	中畠村絵図	天保8年3月	

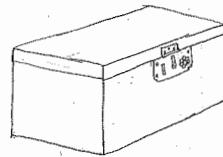
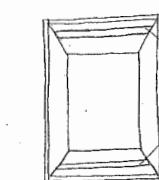
現状記録(箱・容器)カード

文書群名	波多野周造家文書	箱番号	1
形状	黒漆塗箱/セ蓋	材質	杉
寸法	全体 $40.5 \times 30.0 \times 19.0$	蓋 $40.4 \times 29.7 \times 3.9$	
内容	御年玉		
備考	<p>蓋上部板3枚中2枚外れかけている。 蓋裏面文字あり 底板一部差し替え 側面上部破損あり</p>		
記録 銘文	   		

調査日 2020年 2月 10日

記録者 渡本めぐみ

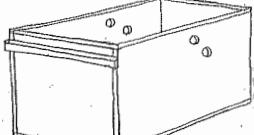
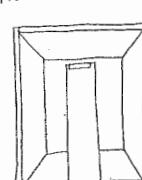
現状記録(箱・容器)カード

文書群名	波多野周造家文書	箱番号	2
形状	黒漆塗箱/セ蓋	材質	杉
寸法	全体 $39.5 \times 29.2 \times 24.3$	蓋 $39.3 \times 29.2 \times 3.9$	
内容	文書等なし		
備考	<p>漆剥離あり 箱内側漆塗布なし 箱内側後補あり 側面、底一部破損</p>		
記録 銘文	  		

調査日 2020年 2月 10日

記録者 渡本めぐみ

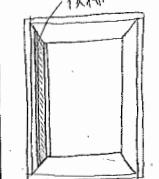
現状記録(箱・容器)カード

文書群名	波多野周造家文書	箱番号	3
形状	(下図参照)	材質	杉
寸法	$37.7 \times 28.2 \times 21.2$		
内容			
備考	<p>蓋一部あり(桐)</p> <p>側面に穴あり</p> <p>側面に持ち手あり(片面のみ)</p>		
記録 銘文	  		

調査日 2020年 2月 10日

記録者 渡本めぐみ

現状記録(箱・容器)カード

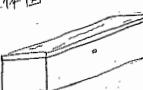
文書群名	波多野周造家文書	箱番号	4
形状	黒漆塗箱被蓋	材質	
寸法	全体 $40.4 \times 29.5 \times 12.8$	蓋 $43.1 \times 32.1 \times 5.5$	
内容	文書等なし		
備考	<p>蓋上部2枚の板 蓋、箱一部凹みあり 底ひび割れ 箱内側後補あり</p>		
記録 銘文	  		

調査日 2020年 2月 10日

記録者 渡本めぐみ

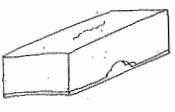
現状記録(箱・容器)カード

現状記録(箱・容器)カード

文書群名	波多野周造家文書	箱番号	5
形状	黒漆塗り棲蓋	材質	杉
寸法	全体 $35.0 \times 16.9 \times 13.9$ 蓋 $35.8 \times 17.0 \times 0.7$		
内容	安政六年六月 預証文箱 波多野大文		
備考	蓋裏面に後補あり 側面穴2ヶ 漆剥離あり 箱内側一部凹みあり 底損傷あり		
記録 銘文	全体図  上段図  蓋裏面 		

調査日 2020年 2月 10日

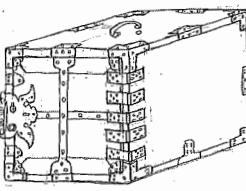
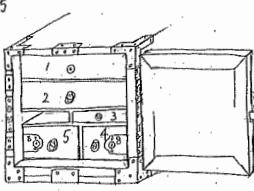
記録者 濱本 めぐみ

文書群名	波多野周造家文書	箱番号	6
形状	被蓋	材質	杉
寸法	全体 $35.3 \times 15.0 \times 10.0$ 蓋 $35.3 \times 15.0 \times 9.8$		
内容	証文箱		
備考			
記録 銘文	全体図  上段図 		

調査日 2020年 2月 10日

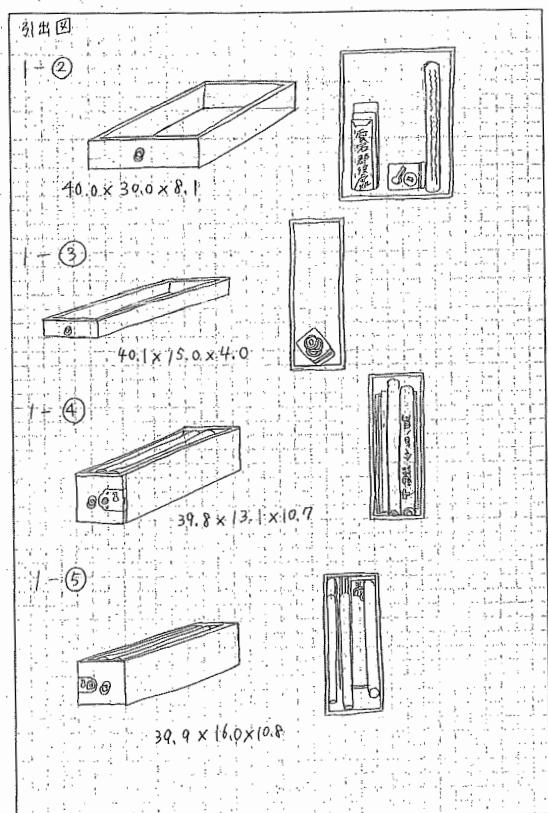
記録者 濱本 めぐみ

現状記録(箱・容器)カード

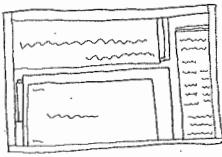
文書群名	波多野周造家文書	箱番号	7
形状	懸硯	材質	杉
寸法	全体 $45.2 \times 33.2 \times 38.0$ 扉 $33.0 \times 29.8 \times 1.5$		
内容	19-5~155まで収納		
備考	引出 5ヶ 引出①は取り出せない 引出②の横引出なし		
記録 銘文	全体図  扉 引出 		

調査日 2020年 2月 10日

記録者 濱本 めぐみ

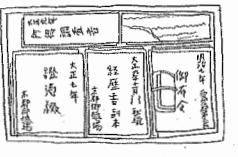


現状記録(箱・容器)カード

文書群名	波多野周造家文書	箱番号	10
形状	被蓋	材質	紙
寸法	全体 38.9 × 54.4 × 10.0 蓋 39.8 × 55.0 × 5.3		
内容	箱 10-1 ~ 1-28 まで収納		
備考	藤田洋服店の箱に入っている。		
記録 銘文	全体図  上段図 		

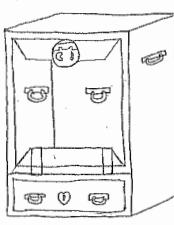
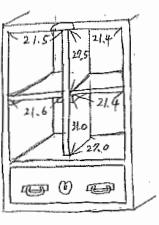
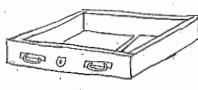
調査日 2020年 2月 11日 記録者 濱本めぐみ

現状記録(箱・容器)カード

文書群名	波多野周造家文書	箱番号	11
形状	被蓋	材質	紙
寸法	全体 39.5 × 59.2 × 10.0 蓋 40.4 × 60.2 × 8.8		
内容	箱 11-1 ~ 190 まで収納		
備考	有本洋服店の箱に入っている。		
記録 銘文	全体図  上段図 		

調査日 2020年 2月 11日 記録者 濱本めぐみ

現状記録(箱・容器)カード

文書群名	波多野周造家文書	箱番号	12
形状	箪笥	材質	杉
寸法	全体 31.1 × 45.5 × 75.0		
内容	棚 18.4 × 47 可動式棚		
備考	背面一部割れ目あり		
記録 銘文	全体図  棚  下段引出 29.9 × 43.2 × 9.0  扉 		

調査日 2020年 2月 10日 記録者 濱本めぐみ

表紙の解説

	1 2 3
5 (裏)	4 (表)

- 1 天保 8 年 (1837) 「山城国愛宕郡小野郷中畠村絵図」 (7-5)
- 2 波多野家の門 (波多野眞氏提供)
- 3 御狹の様子 (追加 1-18)
- 4 波多野家母屋と庭 (波多野眞氏提供)
- 5 御狹場関係文書・御用役札鑑札

京都府立大学文化遺産叢書 (2008 ~)

- 1 南山城・宇治地域を中心とする歴史遺産・文化的景観の研究
- 2 近世伊予越智島地域における流動する人・物・情報
－御用日記・諸願控の総合的研究－
- 3 八幡地域の古文書と石清水八幡宮の絵図—地域文化遺産の情報化—
- 4 八幡地域の古文書・石造物・景観—地域文化遺産の情報化—
- 5 丹後・宮津の街道と信仰
- 6 城陽市域の地域文化遺産—神社・街道の文化遺産と景観—
- 7 熊野の信仰と景観—宗教遺産学の試み—
- 8 石見銀山域の歴史と景観—世界遺産と地域遺産—
- 9 和束地域の歴史と文化遺産
- 10 八幡・南山城地域の寺院資料と信仰—京都府歴史資料調査—
- 11 舞鶴の文化遺産と活用
- 12 「丹後の海」の歴史と文化
- 13 古代寺院の儀礼・經營に関する分野横断的研究
- 14 舞鶴・京丹後地域の文化遺産
- 15 沖縄の宗教・葬送儀礼・戦没者慰靈
- 16 舞鶴の地域連携と世代間交流 井上奥本家文書調査報告
- 17 トルコ・アナトリアの「歴史的重層性」と文化遺産
- 18 京都東山・三嶋神社文書調査報告



京都府立大学文化遺産叢書 第 19 集

京都雲ヶ畠・波多野六之丞家文書調査報告

編 集 東 昇
発 行 京都府立大学文学部歴史学科
〒 606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5
発行日 2020 年 3 月 31 日
印 刷 株式会社 谷印刷所